



大杖 正彦 議員

職場間の協調性を

町長

県の「認め合い運動」を参考に



求められる職場内の協調性

【大杖】 今回のNPO法人業務委託問題で、議会では真相究明のため、調査特別委員会を設置した。

真実を明らかにすること、なぜ発生したか原因を探り町民ファーストの「楽しさ自給率の高い町」づくりを考えることが大切だが。

【町長】 県の取り組みなどを参考に、コンプライアンス（法令遵守）や人権についての研修を実施する。

職場内での話し合いを通して、風通しの良い職場づくりに努める。

【大杖】 幹部同士の報告会などで、お互いの長所や悩みを相談し合える雰囲気や協調性はあるか。

形式的になっていないか。

【町長】 最近、会議数も多く全員で集まり話し合う時間が少ないのが現状。

職員間の問題提起や内部通報制度がある。職員に周知していく。

障がい児童・生徒の

体育授業見学者は

教育委員長

町内ではない

【大杖】 最近、障がいを抱える児童・生徒が増えている。

町内の小・中学校で、障がいを理由に体育の授業を見学している生徒はいないか。

【教育委員長】 町内ではない。特別支援学級に在籍している児童も同学年の児童と体育の学習を楽しく取り組んでいる。

【大杖】 本町の野外活動で、障がい者のスポーツ活動を支援することが必要だ。例えば、体育や運動を同じように体験して、障がい者の気持ちを理解する取り組みは考えないか。

【教育委員長】 車椅子の体験や目隠しをして校内を歩くなど、障がい者と同じ環境・立場

で実施して理解を深める取り組みをしている。



体が不自由な人の立場になって